

入域観光客統計概況

－平成16年4月分－

沖縄県観光リゾート局

4月の入域観光客数は418,500人。前年同月比は+13.7% (+50,500人)で4月としては初めて40万人を突破し、同月の過去最高記録となった。

- ・1月～4月までの入域観光客数は1,720,500人。
- ・前年同期比は+5.9%(+95,500人)

1. 空海路別入域状況

空路：406,600人 前年同月比 (+42,600人 +11.7%)
海路：11,900人 前年同月比 (+7,900人 +197.5%)

2. 主要航路別入域状況

東京：177,800人 前年同月比 (+16,900人 +10.5%) 構成比43.6%
阪神：80,300人 前年同月比 (+9,100人 +12.8%) 構成比18.6%
福岡：54,600人 前年同月比 (+6,600人 +13.8%) 構成比13.4%
名古屋：33,200人 前年同月比 (+1,800人 +5.7%) 構成比8.5%

3. 概況と見通し

4月の入域観光客数の概況としては、国内客においては、修学旅行生の増加やコンベンションの開催、沖縄芸能・文化への全国的な関心の継続に加え、大型連休の日並びの良さなどの要因により、入域観光客数は昨年同時期より増加した。

外国客においては、海路においては、昨年は5月からであった定期クルーズ船の運行が3月末から開始され、各週1回運行されたことにより、対前年比を大幅に上回り、平成14年同月の実績近くまで回復している。

以上のことから、入域観光客数は前年の実績を上回り、同月の過去最高記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、景気の回復による旅行需要の伸びや、夏場に向けてキャリアやエージェントによる積極的な販促活動が期待できること、修学旅行生の増加が見込まれることなどにより増加が見込まれる。しかし、その一方で旅行需要が回復基調にある海外リゾート地との競合が予想される。

外国客については、定期クルーズ船の運行回数が昨年より増える予定であることから、海路による増加が見込まれる。

この結果、国内客、海外客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- エージェント独自のシーズンオフ対策として沖縄キャンペーンの実施や、食文化、芸能への消費者の沖縄に対する関心が続いたことにより入域観光客増につながった。
- キャリアやエージェントによる積極的な販売活動や離島志向の高まりにより、個人フリープランの予約状況は好調に推移している。

大阪事務所 (阪神地区)

- 中学校の修学旅行の増加や、大型連休の日並びの良さ、スローフード、スローライフ等の支持による沖縄人気などにより入域増につながった。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 景気の回復基調に伴う観光市場全体の改善や、健康ブームを背景としたメディアへの露出拡大、各旅行代理店の積極的な販促活動、旅行形態が「高・遠・長」化する傾向の中、安全性の高い沖縄の人気が高いこと等の要因により入域増となった。
- マリン系の観光やレジャーへの人気が高まっており、今後5月～7月についても好調に推移するものと予測される。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 4月から航空会社のレートに変更があり、旅行商品の販売価格が2千円～5千円程度値上がりしたが、沖縄人気が続いているため、入域者数は大きな伸びを見せた。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 直行便では前年並みとなっているが、経由便を含めた全体では対前年同月比でプラスと好調に推移しているようである。道内では、観光全体の需要が高くなっているが、その中でも特に沖縄、関西方面の人気が高くなっているようである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 総統直接選挙後の混乱が収まり旅行需要が急激に回復を見せている。
- 定期クルーズ船の運行により海路による来沖は大幅な増加となっているが、航空路線については沖縄経由上海行の航空便が他地域経由より安価で販売されているため、航空便が満席でも沖縄への入域増にはつながらないという状況が続いており、座席の供給数の増加が課題となっている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 沖縄への送客は対前年同月比で大幅に減少している。景気の低迷等が主な原因だと考えられており、今後も同様の傾向が続く見通しである。